

2009 四季のコンサートだより

2009年10月1日発行
浜松音楽友の会
事務局 〒430-0304 浜松市中区中沢町44-11
電話連絡 (053) 473-3579(原)

e-mail: hamatomo@palette.plala.or.jp
http://www6.plala.or.jp/hamatomo/

去る4月26日(土) 四季のコンサートにご出演いただいた小山実稚恵さんの素晴らしい演奏に、会場は熱気に包まれました。今回はお忙しいお時間を割いていただき、友の会の会員の皆様の為に、インタビューにお答えいただきました。

ピアニスト 小山実稚恵



写真: Katsuo Sakayori

Q: 浜松音楽友の会へは17年ぶりにご出演いただきましたが、今回はホールでのリサイタルの感想はいかがでしたか?

ホールに着いて楽屋に足を踏み入れた途端に、いろいろな事が甦ってきました。前回のコンサートの時に楽屋で友の会の皆様とお話して盛り上がった事、そして会場の雰囲気や演奏の事などなど…。心熱き友の会の皆さんの姿に接して、今回のリサイタルも本当に想い出深いものとなりました。

Q: 前泊されて会場で熱心にリハーサルされている小山さんの姿に感動しました。いつもそのようにされているのですか?

コンサートの前日はできる限りその会場でリハーサルをするようにしています。ピアノは持ち歩けない楽器ですので、会場ごとに違う楽器と自分がどれくらい仲良くなれるか、自分自身がピアノと呼吸を共にできるのかということがとても大切なのです。それぞれの会場の響きと楽器の中で、自分の感じる音楽を表現することがいかに難しいかを確認する時間でもあります。

Q: Bunkamuraオーチャードホールで12年間全24回連続の「小山実稚恵の世界」を2006年から開催されていらっしゃいますが、このような社人リサイタルを企画されたきっかけなどお聞かせください。
*12、24の数字にこだわった理由は何かありますか?
*演奏されるプログラムはどのような基準で選ばれるのですか?
*2017年のご自分をどのように想像されますか?

まず楽譜が大好きだということが基本にあったと思います。楽譜を見ることも音にすることも大好きで、譜読みが趣味でもあるので、あの曲もこの曲も弾きたいという単純な思いから、本当に演奏したい作品でプログラムを作ろうと考えました。それならどういふプログラムが自分らしいのだろうと…自分の生き方と音楽を重ねて「音の旅」にしようと思いました。1日は12時間×2で24時間。1年は12ヶ月。干支も12年で一巡り。1オクターヴは12音でそれぞれに長調と短調があるから調性が24。人間のリズムや自然のリズムと共に旅をするつもりで12年間24回のリサイタル・シリーズに決めました。プログラムの内容については、まだ演奏したことのない曲とか、すでにレパートリーになっている曲とか、そういうことを一切気にせず、これが！と思った作品でプログラミングしました。ですので、全プログラムの半分くらいは初めて弾く曲になってしまいました(笑)。最終回は2017年の秋ですが、その頃は、どうなっているのでしょうか…旅ですので、想像がつかないのいいのかもしれないね。

Q: 「小山さんは電車の中では耳栓をして精神を集中させている」と伺いましたが…?

精神を集中させているというよりは、リラックスさせている、という感じだと思います。ちょっと変なのですが、私には空想癖があって、乗り物で揺られながらそのリズムと共に音楽を頭(というか、身体)で鳴らすことが大好きで、いろい

ろな曲を思い浮かべています。その瞬間は現実と違って、最高の音で最高の歌で最高のテクニックで、全ての作品を本当に弾きたいように弾けるわけですから…こんなに幸せな時間はないというか、もし自分が本当に自由に演奏できる全ての能力を持っていたら、こういう風に演奏するのだろうかという音楽を心で鳴らして、一人悦に入っているのです(笑)。

Q: 「小山さんは実は忘れっぽい」と聞いたことがありますが本当でしょうか?

本当に忘れっぽいです。ピアノの暗譜のときは意識しなくても覚えられますが、それ以外のことは覚えようと意識しても、忘れてしまいます。それはかなり重症で、時には覚えようと思っていたことさえも忘れてしまいます。それで、毎日のように家の中であれこれ探し物をする羽目になるわけですが、やっとの思いで見つけてホッとして、どこかにフッと置いて、また探して、自分で呆れながらそれを繰り返しています。

Q: 習字、手品など趣味の幅が広く、お話していても話題が尽きることがない小山さんですが、好奇心あふれるチャレンジはどこから生まれるのでしょうか?

次々と新しいものに興味が沸いては、すぐにやってみたくて思い、そそくさと始めるのですが、趣味と言えるようなレベルに到達しないまま中断してしまいます。「趣味入門が趣味」みたいな事になってしまい恥じています。

Q: お家では2匹の猫がいつも小山さんのピアノ演奏を聴いているとお聞きましたか…?

ルビン(ルービンシュタインから取った名前)とマルコ(マルコ・ポーロから)というアメリカン・ショートヘアのオスが2匹います。名は体を表すと言いますが、その通りで、ルビンの方は音楽がわかるようです。ピアノの音に反応し時に聞き入っていますし、ピアノの音が好きなのでピアノの傍で寝ている事も多く、特にマズルカ作品67-4が好きで、聞きながらウトリとした目つきになります。マルコはピアノには興味がないのか、ピアノを弾いていてもほとんど無関係に行動をし、マイペースで家の中の探検探索をしています。

Q: 小山さんの今後の抱負をお聞かせいただけますか?

一生に一度でいいので、本当に弾きたいように弾けたらいいなあと、心から思います。

どうもありがとうございました。リサイタルの合間の貴重な時間でありながら、一つ一つ丁寧にお答えいただき感謝いたします。小山さんのますますのご活躍をお祈りしています。

勇気を与えてくれたもの

クラリネット奏者 芹澤美帆

今回、中学時代から慣れ親しんでいるこの会場で演奏会をさせていただき、ただただ感激でいっぱいでした。中学時代はジュニアオーケストラ浜松で、高校時代は定演などでよく使わせていただいた思い出深い会場です。このような大きな会場で演奏会をさせていただきましたこと、関係者の皆様に感謝申し上げます。

現在私は、大小さまざまな演奏会に参加させていただいておりますが、どんな演奏会でも毎回本番前は緊張感で押しつぶされそうになります。そんな時よく思い出すことがあります。

それは、大学時代友人が突然頭痛におそわれ、脳梗塞で倒れた時のことです。知らせを聞いた時は、友人は実家のある長野県の病院に入院しており、すぐには会いにいきませんでした。しばらくして仲間たちとみんなでお



「浜松の演奏家シリーズXVI」9月12日

見舞いに行った時には、全身動けず、口もきけず、目だけは開いている状態でした。その状況に大変衝撃を受けましたが、病室に楽器を持ち込みヴァイオリンを弾いたり、みんなで歌を唄ったり、私たちなりにみんな自分の思いを伝えようと必死でした。友人はその時、目を左右に激しく動かし反応してくれたのでした。

お見舞いに行った仲間たちと“きっとわかってくれたよね、きっとよくなるよね”と確認しあいながら帰路についたのを今でも昨日のことに覚えています。その友人は、奇跡的にも回復し、今は元気に通常の生活ができるまでになりました。私は今でも信じています“あの時の音楽と私たちの思いがきっと救いの一片になっている”と。それにも増して、その友人のその後の頑張りが今に至っていることに間違いないのですが、今でもあの時の友人の目が、私に勇気と音楽をする力を与えてくれています。

今、私に課せられたことは、聴いてくださる人の心に響く演奏を全力ですることだと思っています。まだまだ未熟で、学ぶことがたくさんありますが、常に前を向いて挑戦し続けていこうと思います。



浜松版シーズン・チケット「四季のコンサート」

友の会会員 梶村 誠治

私は「ふれあい音楽会」という名で発足した「四季のコンサート」の結成当時（26年前）から会員になり、毎回、大変素晴らしいコンサートを安い会費で聴かせていただき、心から感謝しています。レベルの高い、色々なジャンルの演奏家を限られた予算の中で交渉される「浜松音楽友の会」のスタッフの皆様のご努力とご苦労は大変なことだとお察し致しております。

我々がアメリカに住んでおりました時、ロサンゼルスシンフォニーの「シーズン・チケット」の会員になり、年間を通して素晴らしい音楽を聴きに行くのを楽しみにしていました。夜のひと時をそれぞれに着飾って楽しむ初老のご夫婦の姿が多かったように思います。コンサートと共に音楽を楽しむ人たちの醸し出す非常に心地よい雰囲気大好きで、当時を思い出しています。

浜松に帰って来ても「四季のコンサート」があり、同じように一年を通して素晴らしい演奏会が開催されており、これぞ浜松版シーズン・チケットと大変嬉しく思っています。

しかも浜松の「四季のコンサート」では、色々なジャンルの音楽を楽しめること、そして、これから音楽に親しむ子供たちから年配者まで、いろいろな聴衆が共にコンサート聴く事は、我々浜松の住民は本当に幸せで恵まれていると思います。今年プログラムだけを見ましても、小山実稚恵ピアノリサイタル、ゴマラン・プラスコンサートといつまでも思い出に残る演奏を聴かせていただきました。素晴らしい演奏を聴ける「四季のコンサート」の会員であることの幸せをかみしめています。

私が小学校低学年の頃、家に手回しの蓄音機がありました。珍しく来客のあった時、そこにあったレコードを廻し、客の注意を引こうと“濱千鳥”の曲など流したりしたものです。中学生になってからは音楽の時間に、クラシックの曲を聴き、先生がその情景はどんなものかを、生徒に指名して聞かれました。その頃、学校でも音楽会があり“草原はるかに、果てしなき野みちを漂ういく日か、旅の身あわれ…”という歌を舞台上で歌う女性徒たちが、すごく輝いていたのを鮮明に覚えています。

高校を卒業して直ぐ、兄と一緒に街を歩いていた時、偶然、中学時代の音楽の先生に出会いました。顔を覚えていただけでなく、名前まで覚えていてくださいました。もしかして音楽の時間にクラシックを聴いて質問に答え

たのが先生の印象に残っていたのかも知れません。浜松に来て、会社の慰安会で聴いた布施明の低音から高音の音量には驚きました。また個人的に江利チエミのコンサートでの“テネシーワルツ”は、時折ラジオから流れると懐かしく思い出します。

そんな私が「四季のコンサート」を聴くことになったきっかけは、絵を描く会にピアノの教師をされているKさんが加わり、たまたま「コンサートを聴きたい」という話をした事で「浜松音楽友の会」に入会させて頂き、今に至っています。四季のコンサートの演奏を聴き、感動するたびに「自分が、今、生きている」を実感します。スタッフの皆様の活動に感謝し、四季のコンサートが何時までも続くことを念じつつ筆をおきます。

これからのコンサート予定

秋

中嶋彰子 ソプラノ・リサイタル

ピアノ：ニルス・ムース

10月29日 (木)

6:45 PM

ウィーン・フォルクスオーバーの専属歌手として卓越した歌唱力、圧倒的な存在感でウィーンで絶大な人気を獲得。現在フリーの歌手としてオペラやリサイタルの他、能楽師とのコラボレーションやアンサンブル「ウィーン・セセッション・プレイヤーズ」の設立など、従来の歌手の枠に囚われない自由な活動を展開しています。華やかでエンタテインメント性溢れるステージは毎回好評を博しています。

プログラム

1部：シューベルト／至福 D433

羊飼いの乙女 D528

音楽に寄す Op.88-4 D547

糸を紡ぐグレートヒェン Op.2 D118

夜と夢 Op.43-2 D827

歓迎と別れ Op.56-1 D767

シューベルト／楽興の時 Op.94 D780より2,3,6(ピアノ・ソロ)

ヴォルフ／女声のための6つの歌より〈ねずみとりの呪文〉

メリーケ歌曲集より〈世をのがれて〉

シュトラウス／たそがれの夢 Op.29-1

セレナード Op.17-2

ワーグナー／「ヴェーゼンドクによる5つの歌」より〈夢〉

2部：シューマン／女の愛と生涯 Op.42

1. あの人に会ってから

2. だれよりも素晴らしい彼

3. 私にはわからない、信じられない

4. 指につけた指環よ

5. あの子の姉妹よ手をかして

6. やさしい友よ、君の眼差しは

7. 私の心に、私の胸に

8. いまあなたは最初の悲しみを私に与えた

トスティ／4月

理想の人

別れの歌

さようなら



(写真：K.Miura)

冬

デビュー20周年シリーズⅢ「敬愛なるブラームス」

竹澤恭子 ヴァイオリン・リサイタル

with イタマール・ゴラン(ピアノ)

12月4日 (金)

6:45 PM

1986年 第2回インディアナポリス国際コンクールで圧倒的な優勝を飾り、世界の“Kyoko Takezawa”として国際的に活躍。現在パリを拠点に欧米のメジャーオーケストラと共演し、絶賛を浴びています。2007年にデビュー20周年を迎え、3年にわたってのシリーズをスタート。今年はいよいよ最終年として、実力派ピアニストであり信頼するパートナー、イタマール・ゴラン氏を迎えて、得意のブラームスの3つのソナタに挑みます。

プログラム

ブラームス／ヴァイオリンソナタ全曲 第1番 ト長調「雨の歌」Op.78

第2番 イ長調 Op.100

第3番 二短調 Op.108



(写真：Tetsuro Takai)



2010年 四季コンサート 予定

春 女流ヴァイオリニスト夢のハーモニー 4月4日(日)

日本を代表するソリストである、加藤知子、堀米ゆず子、戸田弥生、川田知子の4人による夢のように豪華な共演が実現致しました。ひとりひとりの個性が光り、際立ちながらも、美しく溶け合う響きが、まるで四姉妹のおしゃべりのように楽しげに語り合います。このメンバーだからこそ奏でられるハーモニーがそこにあるのです。定番の弦楽四重奏とは一味違った、4つのヴァイオリンによる春風の季節に最もふさわしい演奏をお楽しみください。

夏 市原多朗テノールリサイタル 7月2日(金)

圧倒的美声で、世界中でファンを熱狂させている国際的テノール歌手がよいよ登場です。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座をはじめとする世界中のオペラハウスの常連出演者として活躍。ショルティ、メータ、マゼール、シャイーなど名だたる指揮者とも度々共演し、正統派ベル・カントの驚異的な美声と表現力で世界を舞台に大活躍しています。世界を征した魅惑の歌声をお見逃しなく。

秋 イングリット・フリッター ピアノリサイタル 10月11日(月・祝日)

2000年のショパン国際コンクールで、暖かい人柄をそのまま体現した演奏で聴衆を魅了し、2位を受賞。以来更なる飛躍を続けるアルゼンチン生まれのピアニスト。2006年に獲得したギルモア・アーティスト賞では、世界的に注目を浴び、審査員のみならず、一般の聴衆からも絶大な支持を受けました。日本ツアーでも毎回各地でCDが完売、終演後のサイン会には、大勢の聴衆が列をなし、熱狂的に迎えられています。力強く、優雅な演奏は、誰をも幸せな気持ちにさせてくれることでしょう。

冬 シュテファン・フツソング アコーディオンリサイタル 12月予定

1962年ドイツのケラーバッハ生まれ。1983年フーゴ・ヘルマン・アコーディオン国際コンクールで優勝。1987年ガウデアムス現代音楽国際コンクールでアコーディオン奏者として初の優勝。その後スイス・ロマンド管をはじめ数々のオーケストラと共演し、国際的に活躍中。「アコーディオンは20世紀の楽器」—こう語る彼の言葉を裏付ける様に多くの現代作曲家と緊密な関係を保ちながら、超絶技巧で、アコーディオンの芸術性を確立した演奏は、日々証明され続けています。

浜松出身の演奏家シリーズ

中島実紀 ソプラノリサイタル 5月22日(土)

浜松学芸高校音楽科、国立音楽大学声楽科卒業。二期会オペラ・ストゥーディオ第47期マスタークラス修了。イーストマン音楽学校夏期セミナー受講、デイル・ムーア氏に師事。第16回静岡県学生音楽コンクール第1位。第50回全日本学生音楽コンクール東京大会第2位。これまでに第4回浜松市民オペラ「三郎信康」の侍女・甲役、第5回「魔笛」パパゲーノ役、等多数出演し好評を博す。2009年3月には、「ACT Artist Series」にてリサイタルを開催するなど、今後の活躍が大変期待されるソプラノ。その美しい歌声は、すでに多くのファンを獲得しています。

各回共 於：はまホール

★会員の皆様へのお願い★

会員だより 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内で、テーマは自由です。

会員登録は、年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は、ハガキに住所・氏名・電話・会員番号をご記入の上、前年度の12月末日迄に、事務局宛に退会の旨をご連絡ください。

名義変更の方は、ハガキに旧会員と新会員の住所・氏名・電話・会員番号(旧会員の)をご記入の上、事務局宛にお送りください。

保育室ご利用の方は、コンサートの前日までに、岡本 ☎053(466)5417までお申込みください。

開場時(開演30分前)から終演までお預かりします。1回500円です。

●インタビュー・花束贈呈係を募集しています。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

個人情報の取り扱いについて

当会は個人情報の取り扱いについて「個人情報の保護に関する法律」及びその他の関連法令及びその他の規範、ガイドラインを遵守し、個人情報について適切な管理・取り扱いと保護に努めます。